

山岳ぐんま

第四回 アイスクライミング・ジャパン パンカップ 開催される

群馬県高体連登山専門部 長谷川 喜久男

アイスクライミング・ジャパン

カップが平成二十年二月九日・十日、六合村において日本山岳協会主催・群馬県山岳連盟主管で行われました。会場は六合村の「アイスクエストリーム」です。「アイスクエストリーム」はアイスクライミングの常設民間施設で、昨年一月にオープンしました。通年営業のジムとしては日本で唯一のも

のです。今年で四回目になるジャパンカップは、これまで北海道で開催されていましたが、昨年暮れに急遽、アイスクエストリームを会場に群馬県山岳連盟主管で実施が決まったものです。初の本州開催、山岳連盟としても初体験となる運営主管でしたが、参加選手からも好評で、地元のギャラリも多く、大盛会のうちに無事終了と

なりました。

各競技の概略説明

選手の装備はアイスアックス（六十センチメートル、二本、リーシュレス）、アイゼン付きシューズ（横方向の爪は禁止）、ヘルメット、手袋で開始前に検査があります。人工の氷壁は、高さ十メートル幅三十メートル、ドライ部分は上部に五メートルの水平の張り出



男女予選



開会式

し部分や十メートルの斜めに渡された丸太が追加され、ピノキオや丸太といったアイス独特のホール下類が使用されます。登りに関しての全般的な規則は、カラーペイントなどで表示された限定範囲にアイゼンやアックスを使用でき（手でつかむことも可）、この範囲外はバウンダリーとなりアックス・アイゼンだけでなく衣服を含めて体が触れる事が禁止されています。途中でアックスを落としませんでしたら、その時点で中止アックス同士をかけたたり、アックスに手から肘まで以外を直接かけてのレストも禁止。アックスは口にくわえたり、肩や膝などにかけて左右で持ち替える事は可、ただしハーネスなどに直接かけることは禁止。完登は終了地点に左右のアックスを打ち込むことで認められます。

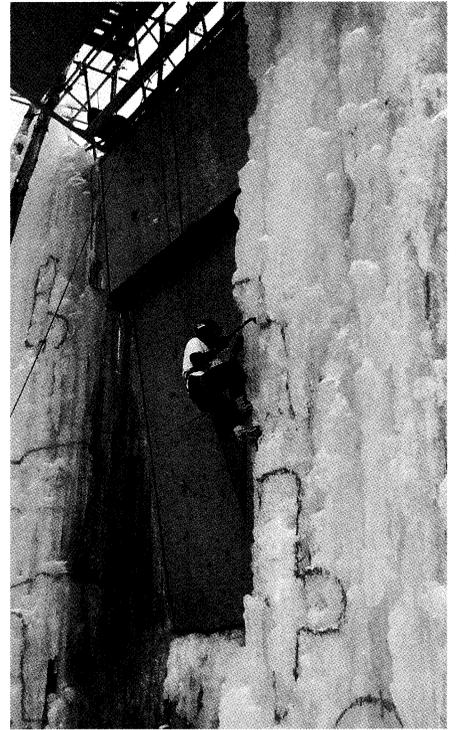
出場選手は、男子二十八人、女子十人で、それぞれ韓国からの招待選手一名を含みます。ルートセッターは韓国のノースフェース・クライミングチームのロゼヨンさん。大会経験が豊富で、一九九四年に日本の長野県・松本で行われたアジアチャンピオンシップの大会でも優勝しています。

ルート競技予選

男女・ルート競技予選は、九日にセツション形式（1ルートに制限時間五分で2トライまで）でおこなわれました。男子は氷壁と丸太とドライ壁を含む4ルートでの完登数や獲得K点で競いました。丸太から氷壁に移るルートで力の差が現われました。女子は氷壁の3ルートでのセツション形式で行われ、前年度優勝の石原選手が氷壁でまさかのフォールとなり、5位となる意外な結果でした。男女同一のルートで、氷壁からピノキオにわたり、天井のようなルーフの先がゴールのものがあり、前年度の上位選手や韓国の選手が力を発揮し完登となり盛り上がりしました。予選は他の選手の登りも見られる（フラッシング）であり、各ルートを登る順番は選手の自由な



男子予選：丸太部のイ選手



男子決勝：氷壁

ので、どこから登り、何分休みとといったところも作戦となります。さつさと早めに登ってしまいう選手と、時間いっぱいまで粘り最後に登る選手などさまざまです。十一時から夕方五時までの長時間にわたるセツションで、男子1位は韓国のリー・チャン・ヒョン選手と石井選手（宮城県）となりました。女子1位はジョン・ウン・ハ選手（韓国）、2位は山岸選手

（東京都）となりました。韓国の選手の圧倒的な強さを感じさせる予選でした。群馬からは、男子では大前選手（桐生）が15位で準決勝に進出、女子で長谷川選手（高体連）が4位で決勝に進出となりました。女子は六人による決勝で、大前選手（桐生）は8位で惜しくも予選敗退となりました。

ランジコンテスト

予選終了後、めずらしいランジコンテストというのが行われました。これは、アックスをスタート地点に刺し、横方向にランジし、なるべく遠くにアックスを打ち込み、その距離で競うものです。飛距離は受付で測定してあったリーチを引いて計算するので、身長差がなく純粹にランジ距離で競えます。選手たちは和気あいあいと楽しんでいました。

群馬県選手では長谷川美玲（前橋女子高校）が今大会で入賞第1号となりました。

《結果》

男子

- 1位 イ・チャン・ヒョン（韓国）
- 2位 岸 育未（北海道）
- 3位 才原 翔（奈良）

女子

- 1位 長谷川美玲（群馬）
- 2位 高橋 恵（北海道）
- 3位 ジョン・ウン・ハ（韓国）

スピード競技予選

ランジコンテストの終了後、スピード競技予選が行われました。男女ともA・Bの二コースに分かれゴールの到達時間を競います。ルートは垂直の氷壁で、スタートラインからゴールまで特に制限はなく、早く登るだけです。終了点

に吊り下げられたフライパンをアックスで叩いた時のタイムを測定します。選手の登りが早いのでブレイヤールはエイト環を使用し二人一組で行いました。A・B両コースのタイム上位二名が決勝に進出します。

男子

- 奈良選手、宮井選手、三樹選手、吉田選手

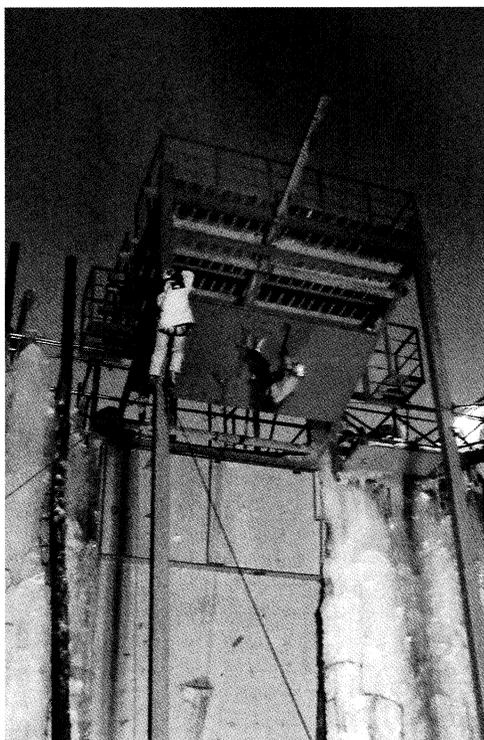
女子

- 石原選手、山岸選手、ジョン・ウン・ハ選手、大前選手

群馬からは桐生山岳会の大前選手が決勝に進出しました。

ルート競技 男子準決勝

大会二日目（十日）、まず男子準決勝がドライ壁を直上し、オーバーハングのルーフを渡り、最後



男子決勝：ルーフ

は水平に一本張り出した角材の先端がゴールというコースで行われました。オンサイト方式で、選手はアイソレーションに隔離され、前の選手の登りを見られず、一人一人順番に登ります。予選の氷壁と違いドライ部分が多く、選手の向き不向きが出たのか、大きく順位が入れ替わりました。

式で競いました。大前選手は準決勝で敗退し、3位決定戦にまわりましたが、惜しくも4位でした。

女子

1位 石原幸江（東京）
2位 ジョン・ウン・ハ（韓国）
3位 山岸亮子（東京）
4位 大前慈雨（群馬）

男子

1位 イ・チャン・ヒョン（韓国）
2位 奈良誠之（北海道）
3位 三樹 昇（北海道）

以下8位までが決勝戦に進出しました。群馬からは桐生山岳会の大前義孝選手が10位と健闘しましたが、惜しくも決勝戦に進むことはできませんでした。

ルートセットの合間に、アトラクションとしてアックス投げ（掛け）が行われました。輪投げと同じ要領でアックスを投げ、指定された梯子の部分に掛かると賞品がもらえるというもので、ギヤラリーを中心に選手やスタッフも盛り上がっていました。ルートセッ

スピード競技決勝が行われました。左右のルートが二人が同時に登り、トーナメント対決方

スピード競技決勝が行われました。左右のルートが二人が同時に登り、トーナメント対決方



女子：スピード



決勝：ドライ壁の長谷川選手

トの時間もギヤラリーを飽きさせない演出でした。

ルート競技 女子決勝

午後になり、女子決勝がスタート。下部は氷壁から正面のドライ壁に移り、ルーフを渡り、最後は水平に一本張り出した角材の先端がゴールというコースで行われました。ルーフからやや距離のある横に渡された角材をホールドでき

にタッチの差で3位に上り詰め、2トライ目にもランジするなど若若しい力を見せてくれました。

1位 石原 幸江（神奈川県）
2位 ジョン・ウン・ハ（韓国）
3位 長谷川美玲（群馬）

ルート競技 男子決勝

続いて男子決勝が、右側の氷壁からスタートしてドライ壁へトラスし、そこを直上しルーフから最後は水平に一本張り出した角材の先端がゴールというコースで行われました。氷壁からドライ壁に移るあたりから第一の核心で、ここを通過したのは五人で、準決勝1位の石井選手もここまでで6位に沈みました。ここまで圧倒的に強かった韓国のイ選手は角材のあたりでスリッパし、再度トライするも結局は時間切れで4位。安定して強さを見せたのは、昨年度

のが石原・ジョンの両選手、ここをタッチしてフォールしたのが長谷川選手、タッチまで行かなかったのが残り3選手という接戦でした。前年度優勝の石原選手は危なげなく角材の中央部まで進み貫禄を見せました。ジョン選手はルーフで足を滑らせ、二度目のトライで時間切れとなり、惜しくも2位となりました。長谷川選手はまさ

佐藤光由（群馬ミヤマ山岳会）、堀越利通（群馬登高会）、赤松久宇（太田山岳会）、松田龍彦（前橋山岳会）、福田純一（大間々山岳会）、星野俊充（境町山の会）、見城正造、西巻信義、竹吉功、桜沢斉、真庭誠、伊沢美佐子（以上沼田山岳会）、角田守（前橋山岳会）、阿部源（群馬ミヤマ山岳会）、原口慎太郎（太田山岳会）、長谷川喜久男（高体連、篠原美美子）かしまの会。

他に、八木原罔明、田中成幸、樋口宗平、石井謙一郎の皆さんが応援に来てくださいました。

平成十九年度 登山教室 ガレ沢の頭

群馬岳連登山指導委員会 高橋守男



ガレ沢の頭

県内の登山者に岳連が何を提供できるかの趣旨で、登山事故防止と、余裕のある登山を目標に、恒例の登山教室が開催された。

一般登山道の安全な通過のため、実技講習を谷川岳で行った。小雨模様での出発のため他の登山者が少なく、ハシゴ・鎖場・ザレ場の通過を中心に十分に実技講習することができた。今年は、自然保護委員会から積極的な協力をいただき、当教室としては初めての座学テーマを設けることができた。また、昨年からは始めたスノーシュー講習を2月に予定している。これを定着させるか否か見極めながら、参加者のニーズに対応していきたい。

昨年同様二十人の指導員に協力していただき、無事教室を終えることができた。三十八名の申込みがあり、平均年齢は五十九歳、最高年齢は七十六歳、最少年齢三十一歳であり、男性二十四名、女性十四名であった。参加者は二十九名、全回出席で修了証を獲得された方は十二人であった。

概要・反省・課題としては次のようにまとめられると思う。これらを次回へ活かしたい。

① 募集方法

六十人を目標に、今回は昨年の参加者全員に要項を郵送したが昨年より申込者減となつてしまった。新聞を見て申し込んだ人の中に、要項を見ていないことと自分勝手が原因と思われるトラブルがあつた。

内 容

9月5日(水) 開講式・講義
「山の危険への対応」
講師 茂木

9月9日(日) 登山実技
「ガンゴ新道・西黒尾根」

9月19日(水) 講義
「読図」 講師 対比地 高橋

9月29日(土) 登山実技 読図
「小野子山 子持山」

10月3日(水) 講義・閉講式
「登山と水分補給」 大塚製菓

「登山と自然保護」 講師 斉藤

「修了証交付」

② 座学内容

山の危険と読図をテーマに内容を選んだ。「読図とコンパス」では、二班に分けたが、廊下での実施は改善の余地があつた。「登山と自然保護」は、岳連の各委員会に登山教室にいかに関わってもらうかのスタートになつたと思う。

③ 実習地

ガンゴ新道でハシゴ・ザレ場の通過の仕方、ガレ沢の頭で昼食の後、西黒尾根の下りで鎖場を体験することができた。群馬岳連の講習会では、谷川岳は原点と思えた。読図は、北毛青年の家での諸注意の後、小野子山と子持山の二班に分かれて実施した。

④

昨年からはじめたスノーシュー講習は二月二十三日に玉原高原で予定している。参加希望者は八人と少なめであるが、昨年とコースを変えながら、定例化の可否を探りたい。

講 師

吉田 直人(境町山の会)

角田 守(前橋山岳会)

久保田一美(太田山岳会) 受付

阿部 源(群馬ミヤマ山岳会)

茂木 稔(群馬独峰山岳会)

斉藤 長作(松井田山岳会)

八木原啓明(群馬ミヤマ山岳会)

登坂 巖(高体連) 会計

大沢 清(高体連)

関口 哲生(高体連)

鹿田 雄三(高体連)

山田 精一(高体連) 事務

高橋 守男(沼田山岳会) 総務

新井 好司(高体連)

対比地 昇(高体連) 事務



マチガ沢出合にて



開会式 選手宣誓

第十八回山田昇記念杯登山競争大会

山田昇記念杯の部

池田幸男(35歳以下)陽子(女子の部)夫妻がともに優勝

三枝照雄賞の部

板野隆徳選手初出場でV

群馬岳連総務委員長 女屋等志

本県が生んだ登山家、山田昇、三枝照雄両氏の業績を後世に伝え、登山の基礎である体力を競い合っており、登山の普及や発展を推し進めようとする、第十八回山田昇記念杯登山競争大会が、平成十九年九月三十日(日)、武尊山(二一五八メートル)において開催され、山田昇記念杯の部八十四名、三枝照雄賞の部三十七名、競争を行わな

い一般参加の部二十名、合計百四十一名が参加しました。スタートしてまもなく小雨となり、荒れたコンディション下ではありましたが、山田昇杯の部では六十九名、三枝賞の部では二十八名が完走しました。

山田杯は池田幸男(栃木県鹿沼市・林ニツト)が二時間一三分五八秒で男子三十五歳以下の部初優勝、同女子の部は池田陽子(池田トマト園)二時間三二三分三秒

で二連覇し、夫婦で優勝を飾りました。三枝照雄賞の部(十九歳未満)は、板野隆徳(県立桐生工業高校二年)が二時間五四分二七秒で初優勝の栄冠をつかみました。

今大会は、秋田わか杉国体と開催日が重複したことで有力選手が欠場しましたが、山田昇記念杯三十五歳以下の部は県立太田工業高校山岳部出身で前回準優勝の池田選手(旧姓林)が、スタート直後からトップ位置につけて全力で登り降りしました。途中から雨が降り出し登山道がぬかるんだ状況の中で健闘して念願を成就しました。同三十六歳以上五十五歳以下では新井孝之選手(沼田警察署谷川岳警備隊)、同五十六歳以上は粕川嘉久治選手(桐生市)が優勝しました。

三枝賞男子の部で初優勝した板野選手は、兄に山や登山の魅力を聞き、高校進学後山岳部に入部し、毎日十キロの負荷でトレイニングを行った成果とのことでした。同女子の部は大河原由衣(県立前橋女子高校)が優勝しました。

山田杯の三週間後の十月二十一日(日)に、東京都山岳連盟主催による日本山岳耐久レースで、参加していた四十歳の男性選手がコースから外れて急斜面を約二百メートル滑落し、頭部などを強く打って死亡した事故が報道されました。幸い山田杯では、死亡事故は起きておりませんが、役員も回数が増えて大会運営に慣れてくると、小さなミスに気づかないことがあります。次回の山田杯では、初心に戻って新たな気持ちで準備することや、参加選手に対しては、自分の身の安全は自分で守るとい

う自己責任を徹底することが重要であると感じました。



新井 孝之 選手



池田 陽子 選手



池田 幸男 選手

山田杯登山大会に参加して

東京都 後藤 多佳子

高校時代のC先輩に「ちよっと大変だけど、すごく面白い山登りの大会があるよ！」と誘われたのは、八月もお盆を過ぎた頃でした。

るのはむしろ名譽なことだと思えるのになっていったのです。

登山などまったく経験のない私に声をかけるなんて見当違いも甚だしいと思ながらも、C先輩をよく知る友人たちに相談してみることにしました。「C先輩に群馬の登山に誘われたんだけど、どうだろう。荷物を背負って走るらしいけど私でもできるかな」。答えは全員が「ノー！」でした。C先輩の言う「楽しい」は一般人とレベルが違うということを異口同音に述べるのです。そうだった、みんなの言うとおりだったと思いつし、お断りのメールを出したところ、直接勧誘の電話がかかってきました。過去の体験を熟く語るC先輩の話の聞いているうちに、なんだか面白そうと思えてしまふのが不思議です。電話を切る頃には、こんな経験は二度とできないかも知れないし、誘ってくれ

三年前の八月にも一緒にハワイに行きたいという動機だけでホノルル・マラソンに参加する羽目になり、翌年には「温泉と宴会」につられて前橋・草津間をリレーで走ることになり、と簡単にできることではないが故に、今となっては素晴らしい思い出をいくつも一緒に作ってきました。今回もそんな新しい思い出が残せたらいいなと参加を決心したのであります。

先ず靴を買い、武尊山のスタート地点へ下見に連れて行ってもらいました。山の緑は美しく、空気も澄み、マイナス・イオンをたっぷり浴び、意気揚々と歩き出したのも束の間。前武尊どころかスキー場すら見ることもなく下山してしまつたのです。登山未経験者の私は、勾配の険しさにビビッてしまい、あつという間にユーターンしてしまいました。こんな山道を走って登るなんてできるのだろうか

か？またまた不安が過ぎります。それでも出ると決めたのだからやるしかない、とにかく準備だけはしなくてはと、スクワットと腹筋を始め、週末には高尾山で走る練習をしました。都会でOL生活をしている身としてはこれが精一杯のトレーニングでした。

大会前日、C先輩宅で荷物を詰め、バスタでカーボローディング。先輩の登つた山々をスクリーン上映してもらい、イメージ・トレーニングだけはばっちりです。とうとう後は登るだけとなりました。

当日の朝、私たち（東京から別の友人二名も参加）は写真を撮りまくり、まるでお祭りにでも参加しているかのようにはいしゃいしました。それがスタート地点へ行ってみると、参加者の姿を見ただけで場違いな自分の姿に愕然。開き直って笑うしかないという心境になりました。

スタートの合図で一斉に走り出す参加者は、あつという間に山猿のように登っていつてしまいました。最初こそ走ってみたものの、後は前に行く選手に離されないようにせつせと歩くこと三十分。予定通りのペースで分岐を通過、その後も順調に進んでいきました。

下見したコースはとつづくに終了、初めて歩く険しい山道。前武尊山頂の看板を見つけた頃には、前方に誰も見えなくなつてしまいました。息が上がリ、足も痛くなり、雨は強くなって不安になるばかりです。あー関門はどこ？まだ着かないの？焦る気持ちとは裏腹に進むスピードはどんどん落ちてきます。スウィーパーはまだ来ない。間に合うよね。前方から声がする！あー関門だ！「セーフ?!」大声を出して呼びかける。審判が腕で大きく×(バツ)を作る。時計を見たら「1:31:30」の文字。がびーん、アウト…。前武尊二分オーバーで失格となつてしまいました。がつくりして休んでいると、「失格者は雨具を着たらすぐに下山してください」と非情なる勧告がありました。トボトボと下山を始めると、さつきまで登ってきた険しい上りは急な下りになっている。当然だけど登つたら下りなくてはいけません。怖いし、雨も強くなつて小川ができています。ゴム貼りの軍手で握つたロープが滑つて落下！泥まみれで、泣きたくなりしました。それでも山は自分の足で登って、下りなくてはいけません。一歩ずつ着実に足を置きま

走って登るなんてできるのだろうか

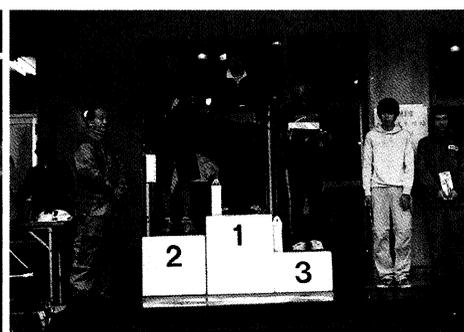
か？またまた不安が過ぎります。それでも出ると決めたのだからやるしかない、とにかく準備だけはしなくてはと、スクワットと腹筋を始め、週末には高尾山で走る練習をしました。都会でOL生活をしている身としてはこれが精一杯のトレーニングでした。

大会前日、C先輩宅で荷物を詰め、バスタでカーボローディング。先輩の登つた山々をスクリーン上映してもらい、イメージ・トレーニングだけはばっちりです。とうとう後は登るだけとなりました。

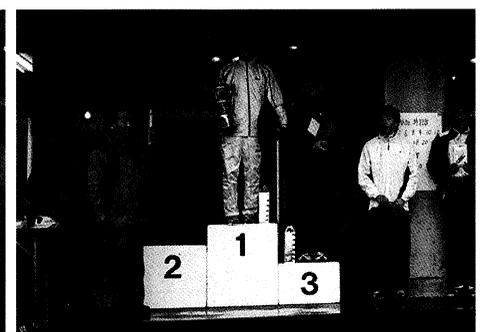
当日の朝、私たち（東京から別の友人二名も参加）は写真を撮りまくり、まるでお祭りにでも参加しているかのようにはいしゃいしました。それがスタート地点へ行ってみると、参加者の姿を見ただけで場違いな自分の姿に愕然。開き直って笑うしかないという心境になりました。



女子の部 表彰



三枝賞 表彰



山田杯 表彰

す。ふと気を抜いていい加減に足を着いたらまたも転倒。まるで人生みたいだと思いつながら下山しました。

スタート地点に戻ると暖房の効いたバスで、先に下山した選手たちが待っていてくれました。泥だらけの雨具を脱いで、急いでバスに乗り込みます。ゴールまで搬送してもらおうと、そこには晴れ晴れとした表情の選手たちがたくさんいました。炊き出しでもてなしてくださる地元の方々、ゴールめがけて駆け下りてくる選手たちの顔。本当に感激でした。山が大好きな人たちが開催している、手作り感たっぷりのお大会に参加できて、最高に楽しかったです。素晴らしい体験ができ、きちんと山登りを始めてみようかなと思ってしまうました。……あ、この大会はそもそも山登りをする人の会でしたよね。こんな参加の仕方は正しくなかったかも知れませんが、誘ってくれた C 先輩に感謝するとともに、大会運営にあたられた関係者の方々に深くお礼申し上げます。と思います。これからも是非、開催を続けていってほしいです。どうもありがとうございます。

大変お世話になりました。

第 18 回 山田昇記念杯登山競争大会記録

山田昇杯の部

◆男子 35 歳以下の部

1	池田 幸男	林ニット	2° 13' 58"
2	細野 裕一	千葉県野田市	2° 21' 18"
3	松本 浩	境町山の会	2° 27' 54"
4	渡辺 幸一	碓氷 A C	2° 32' 16"
5	吉田 尚紀	境町山の会	2° 41' 18"
6	青木 達哉	茨城県守谷市	2° 51' 00"
7	河津 浩一郎	栃木県佐野市	2° 56' 10"
8	高橋 博征	長野県長野市	3° 01' 20"
9	江原 大悟	マカロニクラブ	3° 09' 48"
10	白井 純一	かがりび山の会	3° 11' 03"
11	鈴木 壽和	利根郡片品村	3° 23' 17"
12	萩原 守	信越化学	3° 37' 21"
13	岡田 陽一	岩遊	3° 39' 57"
14	井上 貴智	県立伊勢崎高校	4° 07' 00"
15	田村 元臣	前橋山岳会	4° 32' 33"
16	木村 聡嗣	利根郡川場村	4° 54' 49"

◆男子 36 ~ 55 歳の部

1	新井 孝之	沼田警察署谷川岳警備隊	2° 41' 23"
2	テニス・オコ-礼	東京都青梅市	2° 42' 00"
3	大谷 俊行	大泉町役場	2° 50' 52"
4	割田 靖	高崎市	2° 51' 58"
5	細谷 肇	群馬県庁	2° 53' 45"
6	岩川 修	大空ヒマラヤ会	2° 56' 09"
7	朝倉 一郎	平成山岳会	3° 00' 14"

8	小平 博	MINI 伊勢崎	3° 05' 34"
9	上原 好行	高崎市	3° 10' 37"
10	神田 一浩	桐生走ろう会	3° 11' 01"
11	桜井 順児	利根環境森林事務所	3° 13' 53"
12	田中 識章	平成山岳会	3° 15' 14"
13	阿部 源	群馬ミヤマ山岳会	3° 22' 59"
14	飯塚 亘	東京都江戸川区	3° 24' 08"
15	高田 秀明	石川県白山市	3° 24' 09"
16	マク・ライ-エルグ	チーム・めぐる	3° 25' 19"
17	兎川 道成	千代田走友会	3° 25' 25"
18	田所 洋一	高崎市	3° 31' 16"
19	大堀 努	神奈川県小田原市	3° 31' 57"
20	水原 忠光	静岡県裾野市	3° 36' 16"
21	熊澤 清明	東京都品川区	3° 40' 54"
22	片桐 睦浩	桐生市	3° 45' 59"
23	吉野 林平	沼田市	3° 47' 15"
24	岡田 豊	前橋市	3° 51' 48"
25	鈴木 真	神奈川県小田原市	3° 58' 40"
26	進藤 雅文	太田山岳会	4° 01' 31"
27	三田 治宣	太田山岳会	4° 11' 59"
28	新井 祐治	佐波郡玉村町	4° 26' 15"
29	佐藤 浩	チーム・めぐる	4° 28' 16"
30	橋本 昌美	高崎 T R C	4° 49' 30"
31	沓澤 純	伊勢崎市	4° 49' 33"
32	唐澤 幸至	県立高崎工業高校	4° 51' 48"

◆男子 56 歳以上の部

1	粕川嘉久治	桐生市	2° 37' 31"
2	山田 豊	沼田山岳会	3° 01' 38"
3	廣瀬 昭憲	県立高崎工業高校	3° 07' 22"
4	唐沢 三夫	沼田市	3° 08' 25"
5	水野 正則	十日町山路野会	3° 24' 10"
6	中澤 安信	伊勢崎山岳会	3° 24' 17"
7	井上 土史	チーム・めぐる	3° 25' 29"
8	山下 富也	桐生走ろう会	3° 46' 10"
9	武井 幸一	太田山岳会	3° 46' 57"
10	高瀬 敏久	平成山岳会	3° 52' 07"
11	尾崎 兼行	袖沢溪友会	3° 59' 25"
12	由利 正助	高崎市	4° 15' 08"

◆女子の部

1	池田 陽子	池田トマト園	2° 32' 32"
2	船橋 緑	埼玉県さいたま市	2° 37' 47"
3	阿部 紀子	チーム・めぐる	2° 54' 48"
4	佐藤 祐紀子	チーム・めぐる	3° 29' 53"
5	坂井 陽子	遊クラブ	3° 32' 17"
6	大家 千枝子	高崎健康福祉大学	3° 34' 57"
7	三輪 明子	東京都目黒区	3° 44' 05"
8	中澤 順子	吾妻郡中之条町	3° 59' 22"
9	小湊 りつこ	利根郡片品村	4° 22' 43"

(表中の °' " は、時間・分・秒を表す)

三枝照雄賞の部

◆男子の部

1	板野 隆徳	桐生工業高校	2° 54' 27"
2	浜名 秀和	高崎工業高校	2° 54' 40"
3	金子 拓也	高崎工業高校	3° 08' 28"
4	小林 大樹	沼田高校	3° 15' 20"
5	田中 志道	新島学園高校	3° 17' 26"
6	堤 岳彦	沼田高校	3° 18' 26"
7	岩元 規	高崎工業高校	3° 19' 47"
8	山田 貴之	沼田高校	3° 36' 33"
9	前原 一輝	前橋高校	3° 38' 03"
10	萩原 正和	新島学園高校	3° 39' 26"
11	荒井 洵	新島学園高校	3° 43' 36"
12	小林 応充	新島学園高校	3° 55' 10"
13	長沼 寛之	前橋高校	3° 59' 34"
14	五十嵐 輝	高崎工業高校	4° 11' 30"
15	神尾 智哉	前橋高校	4° 23' 36"

16	高橋 一也	沼田高校	4° 31' 25"
17	星野 良介	沼田高校	4° 41' 10"
18	中里 宗旦	沼田高校	4° 42' 26"
19	木島 丈太	前橋高校	4° 43' 59"
20	寺島 佑亮	前橋高校	4° 43' 59"
21	原 涉	前橋高校	4° 43' 59"
22	永井 利明	高崎工業高校	4° 47' 49"
23	星田 鷹久	新島学園高校	4° 48' 15"
24	伊藤 諒	桐生工業高校	4° 48' 51"
25	横田 浩紀	沼田高校	4° 48' 57"
26	大淵 一成	沼田高校	4° 53' 23"

◆女子の部

1	大河原 由衣	前橋女子高校	3° 34' 20"
2	大澤 咲子	前橋女子高校	4° 58' 27"

今まで登った山や行った場所ですつと心に残って忘れられない光景やその時々、の気持ちを折に触れて思い出す。そのような思い出を思いつくまま綴ってみた。

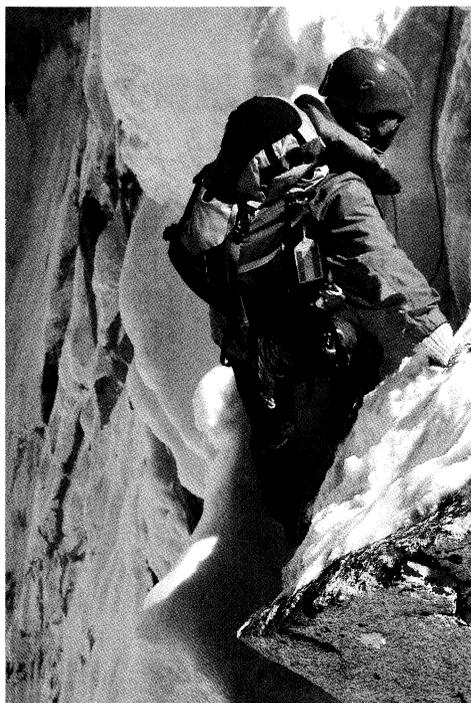
一九九〇年 私が出岳会に入るきっかけとなったゴラバニ峠のトレッキングのできごと。雪が降りとても寒い日、道端の粗末な民家の竈の火が通りから見えた。名塚さんはその家の住人に一言の断りもなく土間をズンズン奥まで入っていき竈の前にしゃがみ暖をとった。その家の住人は黙って自分が座っていた椅子を名塚さんに差し出した。私はエツ何故?と思っしヨックを受けた。でも寒いので私も名塚さんと並んで暖をとらせてもらった。赤々と燃える炎が暖かく黙ったままずっと一緒に炎を見つめていた。

一九九二年 名塚さんリーダーでキリマンジャロ(五八九五m)に登った時のこと。ギルマンズポイント(お鉢の縁)から真暗な空に真っ赤な朝焼けを見た。それは今まで見たことの無い赤、これぞ赤という赤だった。二〇〇六年に再びギルマンズポイントに行ったが、あの素晴らしい赤には出会えなかった。

一九九五年グルジョワ共和国エブルース(五六四二m)に登頂した時のこと。BCである1番小屋になかなか戻ってこない私を心配して老ガイドのストラバが小屋の外で待っていてくれた(この小屋はモスクワから何人かのガイドが交代で詰めている)。彼はへろへろになつて小屋に戻ってきた私を、

思い出の万華鏡

太田山岳会 久保田 一美



アマダブラム南西壁 2006-2

抱きかかえて肩をたたきながら祝福してくれた。彼の温かい思いやりが伝わってきて嬉しく涙が止まらなかった。この山行は私が毎年のように海外に出かけたいと思うようになった出発点だったかもしれない。

一九九六年アイガー東山稜に登頂した時のこと。果てしなく続く、ナイフリッジとピナクルにサンクラスを外して登攀したツゲが回ってきて下山中雪目になってしまった。テント場の木陰で横になって目を冷やしていたらドイツ人の夫婦が私の目頭に軟膏をつけてくれた。(へ渡る世間に鬼はいない)と思えた瞬間だ。この時の親切はとて有り難かった。

一九九七年ニューゼーランドのMt. Cook(三七五四m)に登った時のこと。アイゼンが効かない様な堅い氷の急斜面のトラバースをピッケルでカッティングをしながら足場を作って進んでいた時、カッティングをした氷の隙間からとつてもきれいなエメラルドグリーンが見えたのだ。この美しい色はじめて見る色だった。そして

登頂後ふもとの山小屋アーウィンハットに戻ったその夜、降るように輝く満天の星、それまでもその後もまだこの時以上の星空に出会っていない。

一九九八年エクアドルのチンボラソ(六三三〇m)に登った時のこと。日本で資料が手に入らなくて、エクアドルの旅行社から英文のコピーを送ってもらい、それ

一九九九年アコンカグアの三回目。アタックの朝は満天の星だったのに途中から雪が降り出しガンバレルの長いトラバースの頃には猛吹雪になった。上から吹きおろされ下から吹き上げられ頂上まであとワンピッチと思ったところで断念した。私の前にアルゼンチーナの二人、私の後ろにアメリカの五人組全員一緒にラッセルをしながら下りた。アメリカ隊にしっかりと視界がきかないあのこの足の様なルートが無事に下りられた。三回目だから大丈夫”などとタカをくくった私に山の神様がお灸をすえたのかもしれない。C3まで戻ったらピーカンの青空だった。C2への斜面を胸までのラッセルをしながら鼻歌で下る。前回二回と比べても信じられない雪の多さだ。しかも短時間に。スニーカーで登れる年もあるというのに山は分らない。分らない部分に魅力を感じるのだと思う。

二〇〇〇年カムチャツカのクリヤークスキー(三四五六m)に登った時のこと。ガイドが朝寝坊をしてしまい出発が大幅に遅れ下山が真夜中になってしまった。この山はそんなに高くないのにすこ

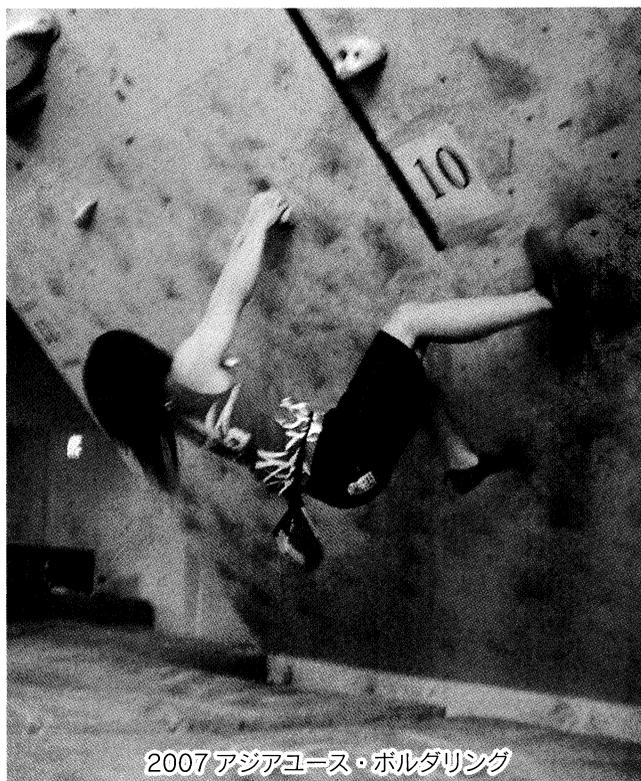
くマニヤツクな山で瓦礫が積み重
なって出来た山だ。最初の一步で
大きな岩がグラツとゆれた。下山
は涸れ沢を自分で落石を起こし、
その落ちていく石に乗って下る。
前の人は後の人がおこした落石を
避けながら下らなければならぬ
のでスピードが必要になる。いく
つかのアイスの沢を渡り、最後
二〇m位の氷壁をピッケル一本で
クライムダウンして右の尾根に上
がってやつと終わった。AM2..
OOだった。BCのロツジのス
タッフが毛布とティーを持って迎
えに来てくれた。ロツジでは夜中
の2..OOにもかかわらず食事を
作ってスタッフ全員で待つていて
くれた。彼らは遭難を心配したの
かもしれない。でもこのコリヤー
クスキーは地元のアルピニスト達
も夏は難しく登らないのによく
登ったと皆で拍手して登頂を喜ん
でくれた。思ってもいないこと
だった。彼らがお仕着せではなく
本当に喜んでくれてるのが伝
わってきてうれしく何回もウオッ
カで乾杯した。この時私は、それ
までお酒はそんなに飲めなかった
のに信じられないのだがウオッカ
がとても美味しいと思つたのだ。

二〇〇六年アマダブラム(六八

二八m)に登った時のこと。アマ
ダブラムは(母の首飾り)という
意味だと一九九一年にエベレスト
街道のトレッキングに行った時に
ミヤマの阿久沢さんに教えても
らった。十五年後再び自分がその
山を登るなどとはその時には想像
も出来なかった。私にはアマダブ
ラムの姿は見る角度によってペー
ルを被ったマリア像のように見え
る。ヒマラヤの山々には神様が
宿っている気がするのだ。これは
私の感覚なのだから一笑に付され
てもそうかもしれないと思つても
思つてくださる方の自由なのだ。
登山を終えてカトマンズに戻った
日、二三日前にアタツクキャン
プに雪崩があり何人か死人が出た
と聞いた。人の運、不運とか生死
を分ける瞬間とかほんの一瞬に決
まってしまうのだという気がする。
以前いろいろな出会いはその人に
とつて良かったとか悪かったとか
いう風に単純に分けられなくて全
ての出会いには必要な出会いなの
だという文を読んだことがある。本
当に私もそう思う。私にとつて全
ての出会いが(山も人も出来事も)
必要な出会いだったのだ。そして
又これからの出会いも全て必要な
出会いなのだとか心から実感できる。

2007 クライミング競技 アジアユース選手権に参加して

前橋女子高校 長谷川 美玲



2007 アジアユース・ボルダリング

私は十一月二十三日から二十五
日にシンガポールで行われたクラ
イミングのアジアユース選手権に
参加しました。今年の夏に行われ
たJOCジュニアオリンピック
カップでユースA3位となり代表
に選ばれました。日本人選手は男
女合わせて九人で、日本山岳協会
の人が引率でした。種目はボルダ

リングとスピードの二種目。国際
大会に出るのは、これが初めてで
した。
まず初日にボルダリングの予
選。予選は六課題あり、それをい
かに少ないアテンプトで登るかを
競います。とても緊張してしまい、
普段より硬い登りでしたが二完登
二ボーナスで4位になりました。

そして、次の日が決勝。始まりが
遅くて待機時間も長きつかった
のですが、予選よりも自分の登り
が出来ました。○完登一ボーナス
で3位になりました。優勝したの
はタイの選手でした。難しい課題
でしたが全力を出せたので、私に
は満足のいく結果です。

最終日にスピード競技がありま
した。スピードは初めての大会で
かなり不安があつたのですが5位
になりました。登つた壁は、世界
標準壁B(一〇メートル)で、大
きなオレンジ色の同じ形のホール
ドが十五個位ついているものでし
た。日本にはこの壁で練習する場
所はありません。優勝したのはカ
ザフスタンの選手でした。カザフ
スタンなどとても速かつた選手の
国では、その壁でいつも練習して
いるそうです。速い選手の登りは
見ていてとても圧倒されました。
表彰式は緊張しました。でも3
位になれて本当によかつたと思
いました。メダルを首にさげても
らつた時はおもわずガッツポーズ
をしたくなつたほどです。
アジア大会に出場するという貴
重な体験ができてとてもうれし
いです。これからも練習してもつ
もつと強くなりたいです。

加盟団体紹介

群馬登高会

私達の会名は、慶応大学山岳部の部報「登高行」から、より高い山へ登る会として「群馬登高会」と名付けた。

群馬師範学校OB及び旧中之条農業学校OBにより設立され、一九五十年群馬県山岳連盟に加入、市町村の地域山岳会の多かった岳連に初めてのクラブ組織として加盟した。

登高という意味からも、昭和三十〜三十五年にかけて春の北アルプス鹿島槍周辺、剣岳定着、縦走など先鋭的な山行が行われ、冬山合宿にスキーを取り入れるなど斬新な考えをもって、行動範囲の広い活動が行われた。合宿も地域研究的なものを取り入れ、白砂山、谷川岳堅炭岩、巻機山周辺など、四季2シーズン入山するような山行を行った。昭和二十七年冬季白砂山初登、昭和三十八年巻機山―谷川岳の冬季縦走を行い、昭和四十七〜四十九年国内冬期登山で

は最も困難な利尻岳東稜南稜合宿を行い、その強風、寒さに対しての装備研究は、後に文部省登山研修所での研修会に参加した者が一目置かれたものとなった。

東大スキー山岳部の関章司の影響もあり、海外登山を群馬で実践する下地も作った。昭和四十五年高田政美ら十名により韓国合宿が行われ、雪岳山や死の谷に於けるアイスクライミングで初めてブルーアイスの洗礼を受ける。ヒマラヤ登山は、一九七八年ダウラギリ―峰に田中成幸・阿久沢廣・真下富夫が初参加、一九八三年菊池健介・真下富夫のヌンブル冬季初登、一九九七年ガツシャーブル



思い出の合宿「1958年 遠見尾根」

ムII峰・一九九九年シシャバンマ・二〇〇〇年マナスルに田島崇行が参加。ヨーロッパアルプスの足跡として斉藤国栄、越谷英雄、竹沢正道、高田政美、堀越利通、小林直子などによる登頂、登攀。ヨセミテ・エルキャピタンに堀越が登攀している。

昭和四十七年、中之条に在住する山仲間が、オールラウンドな山登りを、いつまでも楽しく続けていきたいとの思いをこめて創立した「中之条山の会」も、早いもので三十六年目の活動に入りました。

中之条山の会

現在、当会も現役会員の減少により合宿活動は低迷し、冬合宿は他の山岳会と合同で動いている。一番活発に活動しているのは四十代会員で、半数はフリークライミング志向であり、県内外のフリークライミングエリアや室内壁等で登っている。

創立当時の会員数は七名でしたが、三か月後の「はんこう祭り」には十六人が集まるという盛況となり、新入会員が全く集まらない今の状況から振り返れば夢のような時代でした。

OB会員も活発に動いており、年に一度行われる九月第一日曜日の「帰山祭」には多くの会員が集まり、生涯山を愛して亡くなった会員たちの慰霊を行い、現役との交流を図っているが、会の名前の「登高」という言葉の重さを感じるこのころである。

昭和五十年に群馬県山岳連盟の仲間入りをして、向上心旺盛な会員は各種講習会へ積極的に参加、研鑽を積み、会独自の講習会実施や、国民体育大会への出場、谷川岳や穂高岳・剣岳の岩場に足跡を残したり、地元高山の岩場へのルート開拓も行なってきました。

会長 小林次郎、代表 丸山正捷、OB会長 田中成幸、事務所 高崎市江木町一〇五六すみれ幼稚園内 会員数十五名。

また、地域での活動としては、昭和四十九年に町の体育協会に加盟し、翌年から二十年間、尾瀬へのハイキングを行い、近年は長野や東北の山へも足を伸ばし、これまで三十四年にわたりハイキング



最近の山行から「茶臼岳」

を続け、町民の方々が山へ親しむお手伝いをしています。

また、昭和五十八年から三年間、町の委託を受けて新潟県境に近い山の積雪調査(シーズン三回)を実施したり、昭和六十一年からは十年ほど、オリエンテーリング大会を開催し、地元の野山を駆け回りました。現在の会の活動は、毎月第一第三木曜日にツインプラザで

例会を行い、山行報告・計画を話し合い、月一回の月例山行を基本に個人山行も積極的に行っています。

月例山行は、春のお花見に始まり、夏山合宿、秋のゆけむり山行、山スキーといったように季節に合わせて担当リーダーが企画し進めています。また飲み会も盛んで、八月のはんごう祭・暮れの忘年会山行・新年会などで親睦を深

めています。

こうした会の足跡をまとめるために、昭和五十二年に会報「テラス」創刊号を発行、五十七年に第二号、平成五年に第三号と重ね、現在第四号の編集を行っています。

現在の会員数は十八人です。平均年齢は五〇才を超えています。平均年齢は五〇才を超えてしまいましたが、これまで無事故で山仲間を失うことなく楽しく山登りを続けてこられたことは、大変よかったです。平均年齢も高くなった現在、バリエーションルートへの足は遠のいています。個人や会員職場でも積極的に山へ向かっており、年間六〇〜七〇回の山行ではありますが、年々回数は増えているように感じています。

十数年前には、会員が中高年の山岳会に危機感を持っていたものですが、ご多分に漏れず、いつの間にか私たちも中高年の山岳会になってしまいました。どこの会でも頭の痛いことと思えますが若い会員の確保も出来ず、次世代を担うメンバーを育てられなかったことが現在一番の悩みであり課題と考えています。

昔のようというわけにはいきませんが、これからも和気あいあ

いをモットーに、自分達の体力に

応じ健康の保持にも努めながら、課題の克服と安全登山を心がけていきたいと思えます。会長 長谷川勇。中之条山の会事務局 吾妻郡中之条町中之条九四九―三 長谷川商店、電話〇二七九―七五―二七四一

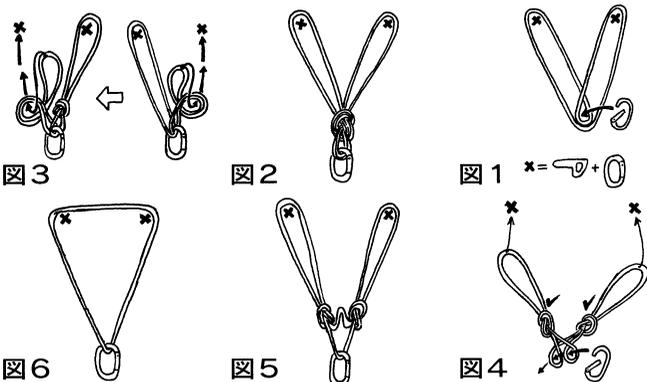
こんなテクニク 知ってますか?
(ハンジックX)
大間々山岳会 福田純一

アンカーに流動分散荷重する場合のアイデアです。

図1は普通に知られているピン2箇所での流動分散アンカーです。ここで片方のピンが抜けるとスリングの長さだけカラビナが落ちて、その衝撃が残るピンに加わることを嫌い図2の様にとめて縛るテクニクがあります。しかし、折角の流動がスポイルされます。そこで、図3の様に普通に流動分散でセットの後、スリングそれぞれをカラビナの直上で個別に結ぶのです。流動ストロークは減少しますが実践的には充分な範囲でしょう。英語圏のテキストには「マジックX」として紹介されている

テクニクです。

さて、私のアイデアです。現場で結ぶ煩わしさを避ける為、図4のように中央付近に予め二つの結び目(レ)を作って携行します。結び目間をそれぞれ捻ってカラビナをクリップすればよいのです。「マジックW」とも呼びましようか。あるいは充分強度のあるスリングなら図5のように結び目間のどちらかにクリップすれば良いのです。クリップ部分は同じスリングで作るXやWの半分になるので「マジックU」でしょうか。半分とは言っても全体の強度は図6と同様です。



岳連トピックス

群馬県スポーツ賞顕彰

長谷川美玲選手 優秀選手賞受賞

昨年十一月二十三日から二十五日、シンガポールで開催されたクライミング競技アジアユース選手権に出場した長谷川美玲選手(県立前橋女子高校2年)は、でボルダリング競技第3位に入賞したことで、群馬県スポーツ賞顕彰の優秀選手賞を受賞。顕彰式は、平成二十年二月七日(木)、群馬県庁昭和庁舎「正庁の間」で行われた。

高崎工業高校山岳部

「山歩きコース整備事業」

日山協から表彰を受ける

群馬県が推進している「山歩きコース整備事業」に、県立高崎工業高校山岳部は、平成九年度第一回から平成十九年度第十一回までボランティアとして連続参加。県内山岳地域の登山コースに指導票を設置してきた。これは遭難防止活動に多大な貢献をしたとして群馬岳連が日山協表彰規程に基づき推薦。この表彰式が、平成二十年一月十九日(土)東京都千代田区九段北「アルカディア市谷」において開催された、平成二十年社団法人日本山岳協会新春懇談会の席で行われ、顧問の長谷川喜久男教諭に授与された。

群馬県体育協会会長表彰

松田龍彦氏に功労賞

国体少年女子三選手に優秀選手賞

平成十九年度群馬県体育協会会長表彰で、岳連理事松田龍彦氏が功労賞を受賞した。氏は岳連理事として本県山岳競技選手の競技力向上に努めるとともに、審判員・競技役員

の養成にも尽力している。また、国体山岳競技少年女子クライミング種目で第6位入賞を果たした長谷川美玲、平田香南子、白石 萌三選手に優秀選手賞が授与された。表彰式は、平成二十年二月十五日(金)、群馬県総合スポーツセンターぐんま武道館大道場で行われた。

平成二十年度

中高年安全登山指導者講習会〈東部地区〉

みなかみ町及び谷川岳周辺にて開催

中高年の体力等に応じた登山の知識や技能について習得するとともに、研究協議を行い、中高年登山指導者の養成と安全な登山の普及を図るために、文科省・日山協・開催地県教委が主催して開催される「中高年安全登山指導者講習会」は、十五都道府県が参加する〈東部地区講習会〉として、平成二十年度は群馬県利根郡みなかみ町去来荘及び谷川岳周辺において、九月十三・十四・十五日(土・日・月曜)、群馬岳連が主管して開催されることになった。講演「中高年の登山の現状と問題点」、講義「登山と病気」、講義「中高年の体力・健康と登山」、また、実習・実技は、天神平―天神尾根―谷川岳山頂(往復)コースと、土合―新道(湯檜曾川沿いに芝倉沢出合まで)―旧道(芝倉沢、一ノ倉沢、マチガ沢)―土合のコースとが計画されている。群馬岳連から多くの講師・参加者が予定されており、収穫の多い講習会となることが期待される。

尚、本年度〈中部地区講習会〉は、滋賀県守山市水保町ホテル琵琶湖ブラザ及び比良山系八つ淵の滝・八雲ヶ原周辺にて。〈西部地区講習会〉は、高知県高岡郡津野町四万十川源流センターせいらんの里及び四万十川源流不入山・天狗高原にて開催される。

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802

<http://annapura.jp>



総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 浜川市有馬 164
☎(0279)24-7111(代)

工事部 浜川市赤城町北上野 203
☎(0279)56-8111(代)

電話、弱電工事

プモリ電設

〒 379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 1819-1
TEL 0270-21-8025
FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)
伊勢崎市中心街 18-8
TEL 0270-25-0272



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21 世紀の人間と環境を考える。

総合建設業



萬屋建設株式会社

会長 星野 光

■本社 群馬県沼田市上原町 1756-2 TEL 0278-23-4648 (代) FAX 0278-24-3371

■支店 東京都豊島区東池袋 4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町 1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

日本工業規格表示許可工場

建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋 2338-1 TEL 0278-24-3111
大楊工場 沼田市利根町大楊 187 TEL 0278-56-3682

マンション

萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋 4-2-7 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964